

令和元年度 学校評価書

学校名： 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関すること

1 学校教育目標	自己評価	学校関係者評価委員会から	
1 学校教育目標：「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。			
2 重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保 ①授業研究に関する研修日を年間2回以上設定し、各回の事後アンケートで「学びがあった」との回答を80%以上得る。【研修課】 【学校説明】授業改善に関する校内研修(全体研修)を年間4回実施した。評価に関する研修、SSH事業に関する研修を関連させながら学びを広げることができた。	A	
	②各生徒が目標に向かって自己有用感を高め、部活動を通して人間形成を図る。各部活動が魅力ある部になるよう計画・実行する。【生徒課】 【学校説明】各部活動が積極的に取り組み、放課後の部活動や長期休業中の合宿、試合やコンクール等自己有用感を高める貴重な時間となっている。部員自らの企画や運営など一歩進んだ活動をした部活動もあった。	A	
	③「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時半までに学校敷地外に出て、帰路につく生徒の割合が前年比増となるようにする。【教務課】 【学校説明】午後7時半までに学校敷地外に出て、帰路につく生徒の割合は前年比微減(H31:81% R1:80% [第2回調査より])に留まったが、部活動ガイドラインを策定したこともあり、完全下校時刻に対する意識は向上してきている。	B	
	④6月実施の進路アンケートにおいて、各学年ともに家庭学習が前年度に比べ増加する。【進路課】 【学校説明】1年生：-23分減少、2年生：-10分減少、3年生：+18分増加。6月の調査で1年生の学習時間が少ない傾向にあったが、指導により改善傾向にある。	B	
	(2)地域や保護者に関わった学校づくりの推進 ①PTA研修会の参加率を10%程度増加させる。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載を5回以上行う。【総務課】 【学校説明】PTA校外研修会(大学訪問)の参加者は32名あり、昨年度(18名)より大幅に増えた。PTAが直接あるいは間接的に関係する行事は多くあり、ホームページへの記事掲載も5回以上行われた。	A	
	②広報関連の発行物を適切なタイミングで作成する。本校Webページのアクセス件数を、月平均1,100(昨年度最低は7月に1,073)以上となるよう、内容が充実したサイトにする。【情報課】 【学校説明】コメント：学校案内、授業公開リーフレットなど、適時発行できた。本校Webページについては、目標を大きく上回る数のアクセス数を実現できた。	A	
	(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。 ①部活動開始・終了記録簿により、すべての部活動がガイドラインに則った活動を行うようにする。【管理職】 【学校説明】部活動ガイドラインを7月に制定した。平日は19時までの活動、休日は年間100日以上以上の休養日を設けるといった内容である。平日については9月から12月の集計で100%の部がガイドラインに沿った活動をしている。休日については集計途中だが、88%の部活動で100日以上以上の休養日をとっている。	B	
			A
			A
			B

II 各指導部・領域等に関すること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から		
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①各クラスにて年間2回以上の面談が実施されるよう、職員会議等で職員に周知する。【進路課】 【学校説明】4・5月の2者面談、夏季休業中の3者面談の実施の他に、2年生は1月第一志望届提出後の面談、3年生は年間通じて複数回の面談を実施した。	A	A		
		②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取り組み ・予習、復習をしっかり行った上で授業に臨ませ、基礎学力・応用力の定着を図り、課外授業にも積極的に参加することを促す。学習時間は、平日2h以上、休日4h以上を目標とする。【1年部】 ・スタディーレコードの継続実施及び集計結果の提示。家庭学習時間平日平均2.5時間以上、休日4時間以上、学期末成績での優良者数35名以上を目指す。【2年部】 ・受験生としての学習サイクルの早期確立(特に部活引退後)のためにスタディーレコードの継続実施。正副担任による各学期毎最低1回の面談の実施。学校が計画する課外への参加生徒の漸増。【3年部】 【学校説明】〔1年部〕予習、復習を丁寧に行って授業に臨む姿勢が身についてきている。今後もこの態度は継続させたい。また、一般クラスの生徒が積極的に課外授業に取り組み、成績優秀者を多く輩出しているのも特徴といえる。学習時間は、平日の2h以上については9月、11月については達成できていないが、他の月は概ね到達している。一方、休日は3h程度で、4hという目標にはいずれの月も届いていない。学年として、休日の学習時間の確保が目標といえる。 【学校説明】〔2年部〕正副担任での学習時間記録のチェックや、それに基づく面談や声かけを継続的に実施することができた。学習時間は、休日の時間を増やしたい。2学期末での成績優良者数は、39名であった。 【学校説明】〔3年部〕入学時より学力不足が指摘され、学習習慣の形成・定着に力を注いできたが、生徒がその気になってくれたのが、やや遅かった。正副担任は、多くの時間を面談に注ぎ、生徒も徐々に本気で向き合う姿が見られた。学習の方法よりも、いかに向かわせるか動機付けの重要性を身にしみて感じた。	A			
		③年度当初および「授業アンケート」実施の際にシラバスを活用する。授業時間数が十分確保できるようなセンター試験後の特別時間割(3年生)の作成を行う。【教務課】 【学校説明】3年生が履修するすべての科目において、授業時間数が十分確保できるよう、センター試験後の特別時間割(3年生)を作成した。	A			
		④新着情報や生徒による図書館ニュースを発行し図書館利用を呼びかけ、利用者を増やす。【図書課】 【学校説明】一人でも多くの生徒に図書館に足を運んでもらうため新規事業として図書館カフェを7月と12月に実施した。7月は約50名、12月は約70名の参加者があった。夏休み前、冬休み前の貸出し数が増加した。	A			
		(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】 ①福祉委員会や各部活動を中心に、ボランティア活動等に積極的な参加を促す。【生徒課】 【学校説明】生徒会や福祉委員会によるボランティア活動が行えた。一部の部活動では、清掃活動などが行われた。	A			
		(3)特別活動の充実 【市共通項目3】 ①部活動や学校行事等において、生徒が自ら考え行動でき、仲間と協力しながら達成感を味わえるよう導く。各生徒が目標に向かって自己有用感を高める活動ができてきている。【生徒課】 【学校説明】部活動や学校行事において、より主体的な活動が行われるよう導きたい。	A			
		2 生徒指導	(1)一人一人を大切に した指導 【市共通項目4】		①いじめの件数を昨年度より減らす。【教育相談室】 【学校説明】昨年度と比較し、いじめ、いじめに類するトラブルの件数は3分の1以下に減少はするものの、継続して、無くなることへ向けて取り組むべき内容であると考えている。	B
					②相手よりも率先して元気な挨拶ができるようになる。制服を正しく着こなしている。節度のある言葉遣いができるようになる。【生徒課】 【学校説明】多くの生徒が正しく制服を着こなしている。率先した挨拶ができつつあるが改善の余地はある。節度ある言葉遣いができるようになるために、継続した指導が必要である。	B
		3 進路指導	(1)進路指導の充実		①10月実施予定の2年学部学科説明会では、国公立大学10大学以上に出張授業のオファーを出し実施する。【進路課】 【学校説明】合計20講座を開講。国公立大学は、筑波、信州、秋田県立、名古屋工業、会津、新潟、大阪府立、長岡造形、群馬、茨城の合計10大学をお招きでき、生徒は大学での学びを体験することができた。	A
						A

3	進路指導	(1)進路指導の充実	②年間4回の進路検討会を企画・実施し、3学年部以外の教員にも積極的に参加してもらえよう、声掛けをおこなう。また、予備校・各社主催の研究会に、3年部職員は年間2回以上参加し、担任会などで内容の報告をする。【進路課】	A	A	卒業学年から次年度3年部への引継ぎは十分ではないことが多いので、進路課が蓄積した情報を基に必要なアドバイスをすることが重要である。模試以外のデータの活用も考えられる。	
4	安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築【市共通項目5】	①自転車のルールを守り、交通マナーを意識した運転ができる。【生徒課】	B	B	ビデオ等で交通事故の悲惨さや被害者の家族等の苦悩をしっかりと伝えていただきたい。続けることが大切である。事故がないことは素晴らしい。	
			②生徒の安全を最優先に考え、施設・設備等の定期的点検及び不具合箇所の早期対応を図り、生徒が安心して学校生活を送れるための環境整備を行う。【事務室】	A			
5	保健管理・指導	(1)健康教育の充実【市共通項目6】	①様々な情報を扱いに注意しつつ共有し生徒への支援に活用する。各行事や保健・整美・校庭美化委員会活動を主導する。【保健環境課】	A	A	校内が整備されていることが元気のもとになる。生徒の心身の健康・体力等の課題について、保護者会ではどのように取り上げているのだろうか。	
			【学校説明】委員会が決められた常時活動や行事毎に関わる仕事に対して、保健・整美・校庭美化委員会の各顧問(保健環境課員)が主導して指導にあたった。生徒も仕事が滞ることなく活動した。				
6	特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進【市共通項目7】	①様々な情報を扱いに注意しつつ共有し生徒への支援に活用する。情報連絡会や事例検討会を必要に応じて迅速に実施し、内容を記録して関係者に回覧し共有する。【保健環境課】	A	A	長欠者が増えているようだが、情報を共有し、早めの対応が何より大切である。個別の指導を必要とする困難を抱える生徒が多いことを感じる。特別支援教育に対する生徒課の関わり方を知りたい。	
			【学校説明】本年度も多くの事案が起きたが、それぞれの情報を共有し必要に応じて会議や打ち合わせに活用できた。生徒の出欠の状況や心身の変化についても継続的に把握でき、情報共有を適切に行うことができた。教育相談・保健室・SC・学年部・生徒課等が連動し、情報を活用して個々の生徒の指導・支援の深化が図れた。情報連絡や事例検討も組織的に実施することができた。教育支援の記録や現状は、関係者に回覧し共有できた。				
7	組織運営	(1)組織・運営の改善【市共通項目8】	①年度当初、年度末面談で各教職員の業務改善に関する取組状況を確認し、学校改善を意識した取組を推進する。【管理職】	A	A	職員間の連携や時短の工夫を、面談を通して職員全体で共有したことを評価したい。全校が一つの方向に向いていることを感じる。	
			【学校説明】教職員人事評価シートや面談を通して、全体の83.3%の教員が、業務の整理、業務の効率化、担任副担任や顧問副顧問間の業務分担、学年内や分掌内での職員間の連携、時間や振替を意識して業務にあたった等の工夫をしたことが報告された。一方で、生徒のための方策と業務の効率化の両立は難しいと答える教員もいる。				
8	研修	(1)研修体制の充実【市共通項目9】	①職員会議等において高大接続改革の最新の情報提供を年2回以上行う。【進路課】	B	B	文部科学省の対応に不安を持つ受験生も多いと思う。情報過多にならないように、正しい情報の精選が必要。本校のSSH事業等の方向は、選抜改革の方向性と一致しているように思う。	
			②次期学習指導要領に対応した教育課程の試案を作成し、教育課程について検討する機会を設ける。【教務課】	A			
			③年間15回(選択型を含む)以上の研修を実施し、職員の資質向上と共通理解を図る。年度末にアンケートを実施し、研修への参加率70%(11回以上の参加)と「学びがあった」「共通理解が深まった」との回答を80%以上得る。【研修課】	B			
			【学校説明】学校教育目標の重点項目をふまえた校内研修を、年間15回実施した。選択型研修への参加率は30%程度であったので、参加者数を増やしたい。				
9	保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進【市共通項目10】	①グループ目標である「指導の重点と取り組み」をホームページ上で公開することをはじめ、普段とは異なった視点から意見をまとめて成果と課題を明らかにする。学校評価書31項目における学校評議員からの評価について、A評価を20項目以上にする。(平成30度はA評価が15、B評価が16)【研修課】	A	A	昨年度は抽象的な目標であったが、今年度は具体的になったことを評価する。地元の学校として、学校の評価が上がるのはうれしい。マスコミ等にも大いにPRしてほしい。	
			【学校説明】今年度の学校評価書32項目のうち、自己評価におけるA評価は23、B評価は9であった(昨年度と比較するとA評価が8つ増え、B評価が7つ減った)。昨年度の改善点を踏まえた地道な取り組みが実を結んだものと思われる。				
			②地域防災訓練への参加者数の5%程度の増加。【総務課】	A			
10	施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	①古紙リサイクルの更なる推進を図るとともに、可燃・不燃ゴミの分別の周知、徹底を行なう。省エネについては、普通教室照明の計画的なLED化を進めていく。【事務室】	A	A	LED化による取組と併せて、新電力需要契約結果についてもふれると、さらに評価が上がるのではないかと。	
			【学校説明】「ごみの分別」「リサイクルの推奨」等の呼びかけ、周知を行い、省エネ社会に貢献する意識啓発に努めた。普通教室照明のLED化は、H29年度までに3年生普通教室は完了した。本年度はスポットで10か所程度更新したが今後は2年生、1年生の教室を順次更新していく予定である。				
		(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①SS探究IⅡ(普通科における探究学習)の円滑な実施およびシラバスの完成を支援する。SSH研究成果報告会後のアンケートにおいて、「(年間の探究活動が)充実していた」と回答する生徒70%以上。【科学探究科】	A	A	確実に成果が上がっている。さらなる精進を望む。SSH研究成果発表会が非常に良かった。このような場の設定により、生徒の取り組み意欲が高まる。職員は地変だと思いが、乗り越えていくことを期待する。	
			②大学等との連携に力を入れて教員の指導力をさらに向上させ、研究内容の深化を図る。課題研究校内発表会において研究に関連する評価平均3.0以上。科学系コンクールでの受賞2点以上。【科学探究科】	A			
			③本校独自のアセスメント「科学的リテラシー測定テスト」と「探究能力測定グループワーク」について、普通科クラスでの調査を実施する。各調査の精度向上に向け、問いや記述語の見直しを図る。【科学探究科】	A			
			④数学、英語、理科において実施している少人数指導のあり方を工夫し、少人数授業に対する生徒満足度を80%以上にする。プロジェクターを利用する授業を定期的実施する。【科学探究科】	B			
<p style="text-align: center;">学校から 経営のまとめ(成果と課題)</p> <p>①文部科学省の指定を受けているSSH事業は、今年度第2期2年目であった。職員も生徒も前向きな姿勢で取り組み、今年度末に1、2年の普通科と科学探究科合同による発表会が校外施設を会場に開催することができた。普通科と科学探究科が学びあい、刺激しあい、自らの力の醸成につなげていけるような環境づくりを心がけてきた。</p> <p>②全校生徒とその保護者を対象に組織的に行う教育相談や特別支援が充実し、展開できている。</p> <p>③新学習指導要領に沿った授業展開の研究を続け、全職員が授業改善に取り組んでいる。年間を通じた職員研修も充実し、OJTが充実しつつあると感じている。</p> <p>④毎日ホームページを更新するなど職員の地道な広報活動により、ホームページのアクセス件数が伸びている。土曜公開授業日の中学生やその保護者の参加人数は、年間総数2609人と昨年度を大きく上回る結果となり、本校への関心の高まりを感じている。</p> <p>⑤次年度に向けて、業務改善を意識して取り組みつつ、魅力ある学校づくりに全職員で取り組んでいく。</p>						<p style="text-align: center;">学校関係者評価委員会まとめ</p> <p>新学習指導要領に沿った授業が着実に進められ、生徒の取組に真剣さと確かさが見られる。また、SSHの普通科へのさらなる展開と浸透を期待する。活動を通して自分の将来の目標を考えたり、学習の方法を理解したり、学習意欲が高まったりするなど、多くのことが期待できる。その分だけ教職員の負担は増加するが、生徒の変容が見られれば乗り越えられると思う。本校の教育活動に関心を寄せる教育関係者も多い。生徒たちの表れについて詳細な調査・分析を期待する。</p>	